

事業の実施状況等について

【阿倍野区】 (受託者等:一般財団法人大阪市コミュニティ協会)

1 地域活動協議会の現在の状況についての分析(年度当初・期末)(受託者が記入)

項目		
百律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	(1)「Ⅰ 地域課題への取組」についての分析	地域が抱える課題について、積極的に他地域の情報を入手し様々な事業に取り組んでいる地域もあれば、人材不足・役員の固定化・高齢化などもあってなかなか新しいことに取り組めていない地域もある。地域それぞれが抱えている問題点や地域にある資源(人材など)は異なり、地域課題を解決するための取組みも地域によって異なってくるため、積極的支援を行う際には、地域の現状に十分に留意する必要がある。
	(2)「Ⅱ つながりの拡充」についての分析	文教地区としての認知度が高く、また高層マンションの建築が進み、新たな住民が増加している。その影響もあり、自分の住む地域でどんな活動があるのかを知らない、活動に参加したことのない層が増えている。また、地域役員の高齢化・固定化から、事業のマネリ化に悩む地域が増えている。
	(3)「Ⅲ 組織運営」についての分析	組織運営において、地域毎に課題が浮き彫りになってきている今、地域の意向を吸上げ、地域にあった支援が必要である。また、事務局機能の強化に向けて適切な支援が必要である。

2 支援の内容及び効果等(1) 上段は受託者等が記入、下段は区が記入)

- (※)Ⅰ・地域課題やニーズに対応した活動の実施 ・法人格の取得
 Ⅱ・これまで地域活動に関わりの薄かった住民の参加の促進 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働(担い手の拡大を含む)【地域活動協議会内部】
 ・地域活動協議会を構成する活動主体同士の連携・協働【外部との連携】 ・Ⅱ地域公共人材の活用
 Ⅲ・議決機関(総会・運営委員会等)の適正な運営 ・会計事務の適正な執行 ・多様な媒体による広報活動

項目(※)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
事業の実施状況及び効果	○	○		地域活動への関心は年齢が上がるにつれて高くなっており、50歳代以上では「興味はない」層より高い割合となっている。現役時代に地域と関わるきっかけがなく、そのまま地域との関係がない層へのアプローチは、今後の課題であり、まずは地域へ出てきてもらい、そこから地域活動への一歩につなげてもらう場作りを行います。	昨年度、地域のニーズを受け紹介・提案し、毎月1回の活動を始めた晴明丘地域「男の集い」について、活動の幅を広げるべく運営をサポート。地域とのつながりづくりや、地域が今年度特に力を入れている福祉へのつながりなどを提案。また、新たに開始した「女子会」についてもサポートを行っている。 受託者は、地域の課題把握について積極的に取り組んでおり、適切に提案できたと評価できる。	1月に始まった「男の集い」は毎月20～30名が参加し、地域のお祭りへの出店、料理教室の開催など活動が広がってきている。地域で検討してきた「みんなの食堂」にも調理面で参画するなど活動の幅を広げている。また、新たに開始した「女子会」では、これまで地域活動に参加してこなかった方の参加がみられるなど、新たなつながりがみられている。 新たなきっかけづくりによりこれまで地域活動に関心がなかった参加者が活動へ参加するきっかけづくりになっており有効である。	今まで地域活動に参加してこなかった層に対し、まずは出てきてもらうという部分では地域活動への第一歩の場として一定の成果が見えてきた。またお祭りへの出店など地域とのつながりという次のステージへ歩み始めている。今後は、より幅広い活動の場を提供することおよび新たに始まった「女子会」へもサポートを進めていく。
	○		○	地域で不足する人材の発掘・育成をめざす講座(PCスキル、IT系スキル)、今まで届かなかった世代に関心の高いテーマの講座、若手の参加を促し、意見を引き出せる会議の持ち方(ファシリテーション)など、地域における人材との出会いから育成につながる場の設定などにより、地域活動協議会が必要とする人材の確保を支援します。	将来的な地域の担い手発掘に繋げるべく「担い手発掘プロジェクト」として誰もが参加しやすい内容として「スマホ、パソコン講座」を計3回、「防災食deクッキング」を2回実施。 地域の課題やニーズにあった支援であり、新たな参加者と地域の方との繋がりも見られ評価できる。	「スマホ、パソコン講座」にはのべ18名が参加。チラシ作成や決算書の作成を学んでもらい、日頃の活動のサポートとなった。また、地域活動に参加していない方には、簡単にできる地域活動のお手伝いなどを案内し、まちセンLINE@への登録へつなげた。また、参加者の方1名が地域の広報紙作成に向けて打合せ中。 「防災食deクッキング」には、のべ33名が参加。防災食のアレンジ料理を通じて防災への関心を高めてもらった。 地域の課題やニーズにあった支援であり、活動への支援として有効である。	参加者にはまちセンLINE@の登録を進め、情報発信をしている。今後は、外部の人材と地域の受け入れ態勢作りが課題である。「防災食deクッキング」で学んだ調理法を、地域の防災訓練でも活用したいとの相談を受けており、参加者の高齢化・固定化の進む防災訓練へのサポートを進めたい。 新たな担い手へのアプローチについて、各地域に向けて積極的にかつ具体的に支援を行うことが必要である。
			○	組織運営において、地域毎に課題が浮き彫りになってきている今、地域の意向を吸上げ、地域にあった支援をします。	地域活動協議会の運営委員会・部会などの会議開催を支援し、会計処理及び書類作成支援を行う。5月には全10地域で個別に会計説明会を開催し、地域にあった説明を行った。10月には中間決算チェックとして、実施済み事業の決算チェック及び通年事業における進行状況を確認し、後期の事業運営へのアドバイスを行う。 地域活動協議会の事務局機能の強化に向けて適切な支援となっている。	地域毎の会計説明会を実施することにより、地域の事業ごとの改善点や部会ごとの状況を地域で共有することにつながった。また、新たに会計担当となった方にも細やかなアドバイスをを行うことができた。 各地域活動協議会から、補助金に関する会計事務についての支援が必要という声が継続してある。会計事務を適切に支援することで、スムーズな事業実施に結びついている。	10月の中間決算において事業ごとの進捗状況を把握し、地域全体としての事業実施に向けての資料としてもらう。また、次年度の事業計画についても早期に検討してもらうよう地域をサポートする。 30年度は全地域において役員改選があったため、新たなスタッフなどは、不慣れな作業が多いと思われるが、事業実施がスムーズに行えるようサポートを行うとともに、次年度にむけた事業計画や予算編成の支援も合わせて進めていく必要がある。
	○	○	○	各地域の地域レポート作成をサポートし、地域課題のリストアップ、現状分析、課題解決に向けた事業実施などを支援します。	運営委員会や役員会に出席して運営状況を把握するとともに、運営に問題がある時には適正な運営に向けたアドバイスを行う。また、地域レポートの作成を通じて地域とともに課題や現状を把握し解決に向けての活動を支援する。 各地域の基本的な情報を取得するとともに課題把握について積極的に取り組んでおり、適切に取り組んでいると評価できる。	各地域の運営状況を把握するとともに地域の住民が参加する行事でアンケートを実施し、地域課題を抽出し現状を把握している。 各地域の基本的な情報を見る化し、住民の声を直接聞くことで現状を把握することができ課題解決に向けた提案に繋がると考える。	各地域の現状を把握するとともにアンケートにより課題を抽出し、解決に向けたサポートをしていく。 各地域の情報を積極的に集めることで課題を明確にし、具体的に支援を行うことが必要である。

3 支援内容及び効果等(2)(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見	
事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の実施状況 (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが参加・参画しやすい事業の展開。 多様な地域活動との連携・協働。 区内の地域活動協議会の情報交換や連携の促進。 	<ul style="list-style-type: none"> 「パソコン・スマホ」講座計3回のべ18名、「防災食deクッキング」講座2回のべ33名が参加。清明丘地域「男の集い」運営サポート。 どっぶり昭和町への広報協力、ブース出店。 全10地域が参加する地域フォーラムの開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 「パソコン・スマホ」講座の受講をきっかけに、まちセンLINE@への登録をしてもらい、各種情報を発信。その中から、「防災食deクッキング」講座への参加もあった。清明丘地域「男の集い」によるお祭りへの出店、「みんなの食堂」への支援など地域との連携が進んだ。 阿倍野区内の団体と連携し、広報協力、ブース出店により地域活動協議会のアピールへつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「男の集い」が、地域への第一歩となるきっかけ作りで活動が広がる一例となった。しかし、活動を始めてまだ半年であることから活躍の場など、地域ともうまく連携していけるようサポートしていく。 「女子会」についても、「男の集い」同様、活動をひろげ、地域ともうまく連携していけるようサポートしていく。 広報協力やブース出店から、相互の連携を進めていけるようサポートしていく。
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制	アドバイザー兼まちづくり支援員1名(まちづくりセンターの運営、支援員の業務を統括及び地域活動協議会の運営支援を担当、常勤週5) まちづくり支援員2名(地域活動協議会の運営支援を担当、常勤週4)	<ul style="list-style-type: none"> アドバイザー1名、まちづくり支援員2名の計3名。阿倍野区内10地域を地域担当制を敷き支援を行っている。スタッフ間で常に情報交換を行い、情報共有を行っている。 まちづくりセンターにはアドバイザーが常駐し支援員の指導を行い、地域への有効な支援に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域担当制を敷き、信頼関係を構築していることから、様々な声があがりやすく、地域の課題や状況の把握がスムーズに行えている。 まちづくり支援員は地域から信頼されており、細やかな支援ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の実情を理解した上で、地域にあったサポートを心がける。また、現場の声をまちセンを通して地域に反映させ、よりよい地域活動をサポートしていく。 内容に応じて、スーパーバイザー、アドバイザー、まちづくり支援員が連携して事業を実施した。引き続き、「全体支援」「個別支援」を役割分担して行ってほしい。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	大阪市コミュニティ協会本部(労務管理等の事務作業面でサポート) 大阪都市コミュニティ研究室(他区との交流、情報交換など、まちづくりセンターをサポート)	<ul style="list-style-type: none"> 月に一度、8区のアドバイザーが集まり、各区の状況を報告し共有する場を設けている。また、フォーラムなど単独での実施が難しい場合は他区からの応援を仰ぐことができる。 他区のアドバイザーと意見交換するなど有効な情報を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報が入りづらい他区の状況などを定期的に共有することで、地域への情報提供や見学、講師派遣などスムーズに実施している。 他区においても実績があり、積み重ねたノウハウを共有することで、適切な支援につながると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 他地域の情報をしっかり共有し、地域のニーズにマッチできるよう情報収集に努める。 他区においての事例の共有などを通じてより地域に相応しい支援を実施してほしい。
	(3)区のマネジメントに対応した取組				

4 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等(上段は受託者が記入、下段は区が記入)

支援策(取組)名称	事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段)支援状況(実績) (下段)支援状況に対する区の意見	(上段)左記の支援効果 (下段)支援効果に対する区の意見	(上段)左記の状況及び効果を踏まえた課題分析と今後の改善策等 (下段)課題分析と今後の改善策等に対する区の意見
担い手発掘プロジェクト 「パソコン・スマホ講座」 「防災食deクッキング」 清明丘「男の集い」サポート	地域活動に興味はあるが活動はしていない層をターゲットに、関心の高いテーマを選び自由に参加できる講座や勉強会開催し、地域活動協議会への関心を高めます。また、今一歩地域へ踏み出せていない層へのアプローチも重視し、地域における居場所作り等をテーマに地域活動への関心を高め、地域活動協議会の新たな担い手の発掘へとつなげていきます。	<ul style="list-style-type: none"> 将来的な地域の担い手発掘に繋げるべく「担い手発掘プロジェクト」として誰もが参加しやすい内容として「スマホ、パソコン講座」を計3回、「防災食deクッキング」を2回実施。 昨年度、担い手発掘プロジェクトからスタートした清明丘「男の集い」の運営をサポート。 地域活動の参加者増をめざした取組で、パソコンやスマホ、「クッキング」という身近なツールを用いた有効な支援策と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に参加していない方の参加が8割。地活協を知ってもらい、広報等での参画を提案。講座参加者にまちセンLINE@登録をお願いし情報発信している。また、参加者の方1名が地域の広報紙作成に向けて打合せ中。 地域活動への第一歩としての居場所作りを大切にしながら、地域活動との連携をよりすすめて行く。 通常の会だけでなく、「料理の会」が発足するなど活動が広がっている。また、地域の祭りに出店。 パソコン、スマホ講座を受講してもらうことで地活協のことを知ってもらいきっかけとなるとともに、防災食を使ったクッキングでは、防災ミニ講座を実施することで、より地域のつながりが重要だということを伝えることができ有効な支援となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域への一歩となるきっかけ作りとして、様々な層にあったテーマでの講座を実施し、地活協への参画を促していく。また、地域と連携し参加しやすい環境づくりを進める。 地域活動への第一歩としての居場所作りを大切にしながら、地域活動との連携をよりすすめて行く。 地域活動への参加者増をめざした取組で、各事業とも地域活動協議会の取り組みを知ってもらいたいターゲット層を絞った有効な支援策と考える。今後もターゲットを意識した支援策を行うことが有効と考える。
地活協の認知度アップに向けた広報力の強化	地域活動に関する情報発信の強化をすることの重要性を地域活動協議会に訴え、紙媒体やウェブ(フェイスブックやツイッター等)による広報や広報イベントの実施など、幅広い世代への情報発信につながる広報手段を活用するよう、はたらきかけを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の事業担当者向けにチラシ作成のサポート。 地活協を身近に感じてもらうためのツールとして、リーフレットや広報誌を作成し、区民まつりや地域の事業で配布。 作成した広報ツールに関心の高い内容も含まれ、地活協の認知度アップに有効な支援策と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 今まで個別や直前の告知であった広報をまとめ、年間スケジュールとしての広報ポスターの作成を支援し、掲示することで地域住民の目に触れる機会を増やした。また、広報誌の中で構成団体の紹介をすることで組織力アップにつながった。 年間を通した事業の広報はより多くの区民に周知することができ有効な支援となっている。また、構成団体の紹介は組織力アップとして有効な支援であるとともに地活協の認知度アップにも寄与すると考えられる有効な支援であると評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 手薄になっていた広報活動について支援し、また地域で得意な人とのマッチングを進める。(現在、手を挙げて下さったデザイナーさんと交渉中) 区民モニターアンケートなどの結果では地域活動協議会の認知度は低い状況である。今後も、引き続き認知向上に向けた支援が必要である。
出張ミニセミナー「防災勉強会」	「防災」を切り口に「まちなか防災訓練」でのプログラムのひとつとして、また、小学生・中学生向けの事業において防災カードゲームを使った講座の提案。	「まちなか防災訓練」プログラムのマンネリ化による参加者数の固定化に対し、小中学校との連携による土曜授業や子ども向け防災教室において、楽しく参加できるプログラムとして実施。 プログラムの見直しにより新たな参加者を増やすことに繋がっており評価できる。	<ul style="list-style-type: none"> 様々な自然災害の発生もあり、防災をより身近に考えてもらうきっかけとなった。また、学校の先生にとっても地域との連携の重要性を感じてもらえた。 地域と学校を繋ぎきっかけづくりとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> これから行われる地域の防災訓練において、若い世代も参加しやすいプログラム作りや、受け入れ態勢の検討が重要。 更なるプログラムの充実により、多くの世代が参加できるよう工夫が必要である。